

津島高校 前期「探究 week」

令和8年5月14日（木）～19日（火）まで、国際探究科の前期「探究 week」を行いました。

時間割

（1）第1学年

	1 限	2 限	3 限
5 月 14 日（木）	物理（物体の運動をストップモーションアニメに） 物理室 〔宮地〕		なし
15 日（金）	生物（東山動物園探究） 〔岩瀬・鈴木啓〕		
18 日（月）	岐阜大学訪問 〔金澤・大谷・伊木・岡〕		
19 日（火）	進路講話（ベネッセ） 興学館 〔鈴木武・大谷〕	国際探究ワークショップ 興学館 〔鈴木啓〕	LT 教室

（2）第2学年

	1 限	2 限	3 限
5 月 14 日（木）	愛・知・みらいフォーラム 興学館 〔大谷〕		化学① 興学館 〔宮地〕
15 日（金）	日本史（しだみ古墳探訪） 〔木村〕 世界史（愛知県陶磁美術館訪問） 〔杉浦〕 生物（東山動物園探究） 〔岩瀬・鈴木啓〕 物理（剛体のつり合いに関する探究活動）・・・物理室 〔伊木〕		
18 日（月）	岐阜大学訪問 〔金澤・大谷・伊木・岡〕		
19 日（火）	化学② 90 分 化学室 〔宮地〕	進路講話（進路・国探） 50 分 化学室 〔鈴木武・大谷〕	

以下、一部を紹介します。

愛・知・みらいフォーラム 講演会 国際探究科 2年

日時：令和8年5月14日(木) 8:50 ～ 10:45

場所：津島高校 興学館

対象：生徒38人（国際探究科2年生）その他4人（教職員4人）

講師：倉田 浩伸 様

題名：「胡椒を通じて平和を考える～カンボジアでの起業から」

授業概要：

- ・カンボジアへ行った理由について・・・中学生の時に親しい人を亡くし、「人は何のために生きているのか」を深く考えるようになったのが、1番のきっかけ。
- ・若い時に、世界に実在した衝撃的な貧富の差を目の当たりにして、日本に生まれたことに安堵した自分にそれでいいのか自問した。
- ・カンボジアで「難民帰還プロジェクト」に参加し、「自分が当たり前と思っていたものが当たり前でないと気づいた。
- ・カンボジアでの教育支援の難しさを知る。
- ・内戦後の復興時に、農業国カンボジアの復興、外貨獲得、経済的自立の礎になるものを探し、ドリアンなどから始め、最終的に胡椒の輸出の会社を始める。
- ・日本とカンボジアの人々の価値観の違いに焦点を置き、多様性を尊重することで、会社がうまく回るようになった。
- ・世界の貧困を削減し、持続可能な社会をつくるには、世界中の人々が与えられた命を精一杯生き抜ける平和で幸せな社会で暮らしたい。



感想

- ・本校の国際探究科が目指す、みなが平和で幸せに暮らせる社会を作るにはどんなことが必要なのかを生徒が考える機会となった。（教員）
- ・多様性を尊重していく姿勢を、「アリとキリギリス」の話を例に、分かりやすく生徒に伝えていただいた。（教員）
- ・いろんなことを経験することはもちろん、その経験から何を学んで、どう考えて、どう行動するかが

1 番大切なんだなと思った。(生徒)

・自分の視野を広げてたくさん経験するには、やはり日本だけじゃなくて、世界に目を向けていくことも大事だと思う。(生徒)

・自分は「アリとキリギリス」のアリに当てはまると思った、話を聞いて、今までの自分は何かに縛られすぎなのかと思った。(生徒)

・今まで聞いたお話の中で1 番面白かったです。(生徒)

・考えて実行したものがダメだったら、また次へ、それでもダメだったらまた次へとどんどん挑戦していく姿勢はすごいと思った。自分もそうやっていきたいです。(生徒)

国際探究科推進部 大谷 暁子

東山動物園 探究

日時：令和8年5月15日(金)

場所：東山動植物園

対象：国際探究科1年生・2年生(理系・生物選択)

講師：動植物園職員

概要：

- ・職員の方の案内のもと、絶滅危惧種についての解説を聞いた。
- ・最初に、世界の絶滅危惧種の状況、カテゴリーについての概説があった。
- ・その後、アフリカゾウ、スマトラトラ、ホッキョクグマ、コアラと実際の動物を案内してもらい、それぞれの動物がどうして絶滅危惧種になっているのかの説明を受けた。
- ・案内終了後は、各自での探索となり、生徒がそれぞれの観点で、東山動植物園をまわりレポートを書いた。

生徒感想：

- ・動物園にいる多くの動物が絶滅危惧種と知り驚いた。人間の都合で色々な動物が絶滅する恐れがあると考え、私たちは日常生活でも責任を持って行動するべきだと思った。(生徒)
- ・絶滅危惧種と聞くと知らない動物ばかりのイメージだったけれど、聞いたことがある動物も絶滅危惧種と知って、すごく身近なものに感じ、もっと絶滅危惧種について勉強して、私にできることを探そうと思った。(生徒)
- ・牙の長い個体のゾウが減っているのが、人間が牙の長い個体を狩りすぎた結果の遺伝子の変化だと知って、人間の行動が動物たちの姿や環境を大きく変えてしまっているということを、改めて強く認識させられた。(生徒)
- ・動物が絶滅してしまうことに自分は関係ないだろうと思っていたが、スマトラ島のパーム油のように、商品を購入することが間接的に動物たちを絶滅の危機に追いやっていることを知った。しかし、スマトラ島などのように、特定の植物で経済をまわしている地域でその植物の生産をやめることはできないため、難しい問題だと感じた。(生徒)



生物担当 岩瀬 幹弘

日本史 古墳探究

日時：令和8年5月15日（金）

場所：志段味古墳群 しだみ古墳ミュージアム

対象：国際探究科2年生（文系・日本史選択者10名）

概要：①JR 高蔵寺駅より徒歩で東谷山白鳥古墳と白鳥塚古墳を探查(90分)

外観および石室や周辺景観などから、古墳の立地の特徴や資材調達について討論と考察

②博物館まで徒歩移動しながら、古墳石材の二次利用例など討論と考察

②しだみ古墳ミュージアム苑内7か所の古墳をボランティアガイドさんの案内で見学(1時間)

③ミュージアム館内を学芸員さんの案内で見学(45分)

生徒感想

・ずっと自分の目で見てみたかった古墳を見れて、すごく貴重な体験をすることができてよかった。教科書で今まで何度も古墳を見てきていたから、大体のことを知っているつもりだったが、実際に見ると、気になる部分があったり、初めて知ることや気づくことがあったから、すごく楽しかった。

・古墳は前方後円墳や円墳しかないと思っていたけど、ホタテ式古墳という前方部が短い古墳があり、前方後円墳より格下の意味合いを持ったことを初めて知った。前方後円墳はだれでも造っていいものじゃないことに驚いた。埴輪は野焼きをしてい時期は、ハニワに黒い点ができたり、孔を丸や三日月にあけたりしてたけど、登り窯で焼くようになってから、熱を上から逃がせれるようになって、硬くしっかりした埴輪が焼けるようになったことが興味深かった。種類の違う古墳を見て回る機会はそうそうないので、貴重な経験ができた。授業でやった基本的な知識に加えて、細かい情報まで知ることができたので、この知識を誰かに披露したくなった。

・はじめは「古墳かぁ」とあまり乗り気ではなかったけど、いざ行ってみると、案内人さんの説明とか、先生の「これどこから来たと思う？」みたいなクエスチョンとかで、楽しく古墳のことが知れました。でも、めっちゃ暑かったし、意外と歩きっぱなし、立ちっぱなしですごい足痛たかったです。私が古墳見学で一番びっくりしたのは「ニワトリ」です(古墳じゃない…笑)。ニワトリが朝を知らせる鳥っていうのは、なんとなく知っていたけど、肉も卵も食べないということに驚きました。昔も絶対食べていると思っていました。

・実際に古墳に行ったことで、教科書ではわからないような周りの景観(川や木)などをすることができた。先生やボランティアガイドさんの話を実際に見ながら聞くことによって、いつもの授業より理解が深まって楽しかった。学芸員さんの話を聞き、調べてもわからないような埴輪の模様の意味、形、焼き方などを詳しく知れて学びが深まったと感じることができた。古墳の形は時代によって異なっているものと思い込んでいたけどガイドさんの話を聞いて、埋葬されている人の好きな形だったり、権力などもかわってくることを知ることができた。

・古墳は私たちの身近に意外とあるということがわかりました。特に驚いたのは、コンビニの数より古墳の数の方が多いということです。古墳と一口に言っても、ちょっとした丘のようなものや、山みたいに大きなものなど、大きさや形様々な種類があることがわかりました。古墳見学に行く前は、白鳥塚古墳や東谷山白鳥古墳のようなものを古墳というのだと思っていましたが、西大久保古墳などのように、高さが低くて、よく見ないと古墳だと分からないようなものも古墳というのだと思いました。山の上や山の中に古墳があるなら、同化して古墳だとわからないはずなのに、古墳が見つかっているのは、授業で習ったレーザーを用いて見つけられたのだと考えました。

・古墳がつくられても埋葬されていない場合があることを知って、とても驚いた。また発掘調査のことに興味を持った。自分の将来の夢は国際関係の仕事(CA・グランドスタッフ)につくことだけど、日本史もすごく好きだから発掘関係の仕事も興味があったから、勉強になった。また、動物の埴輪を見て、当時の動物はどのような役割をしていたのかも聞くことができ、知れてとてもうれしかったし、面白いと感じた。古墳の外観の石積みのところでも、見えるところはきれいで、見えないところは隙間があったりして、その差がはっきりしていて、びっくりした。

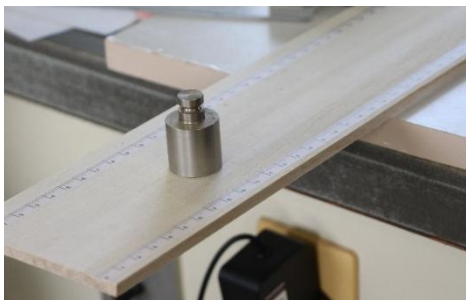
・古墳はモノによって大きさが全く違っていても、同じものに分類されていて不思議だと思いました。志段味古墳群は全国でも珍しい最新の窯焼きで埴輪を焼いていたことから、大陸の文化やヤマト政権とのつながりが強いことがわかり、正直愛知県には歴史的なものがないと思っていたけど、歴史的に価値があるものがたくさんあるのだなと思いました。また古墳の発掘方法も、未来にもっと良い発掘方法ができると信じ、一度ではなく、何回かに分けて行っていることを知り、目先のことではなく、長い時間をかけて真実を追求するんだなと思いました。

・こんな大きな古墳をみんなで協力して造るなんて、相当大王がみんなから信頼されていないといけなかったんだろうし、働いた人たちは絆が生まれそうだなと思った。葺石の見えないところに手抜きをしていて、人間味を感じた。段差があるのは、土をいろいろなところから取っているためだった。江戸時代が200年ほど続いたのに対して、古墳時代は450年も続いているのがすごいと思った。

「定規一本で作った竿ばかりの精度を検証する」(理系物理) R8.5.15

実験の概要 机の端からはみ出した棒におもりをのせ、棒が回転し始める距離を求める問題は、剛体のつりあいの単元における典型問題の1つです。これをおもりの質量を測る竿ばかりに見立てた実験を行い、その精度を検証しました。

●木製の板にメジャーマスキングテープを貼り定規としました。机の端からはみ出した方におもりをのせ、回転するかしないか、境目となる位置を探ります。



●原理はシンプルですが、精度が高いデータを得るため、注意すべきポイントが多くあり、協力して実験に臨んでいました。



岐阜大学訪問

日時：令和8年5月18日(月)

場所：岐阜大学 地域科学部、農場、OKB 岐阜大学プラザ（起業部）

対象：国際探究科1・2年生

講師：地域科学部 助教 大澤 圭吾 先生

午前中は、地域科学部の大澤圭吾先生による「尾州毛織物」についての講義を受けました。先生のこれまでの生き方にも触れながら、地域の中小企業の活性化になぜ興味を持っているのかを熱く語って頂きました。また、実際に様々な糸や毛織物を触ってみたりして、毛織物についての知識が深まりました。その後、先生の案内で大学図書館を見て回ってから、大学内にある OKB 岐阜大学プラザで、「起業部」サークルの大学生にお話を聞きながら昼食をとりました。

午後は、本校卒業生の応用生物学部の大学院生に農場のハウスを案内してもらい、起業部の活動や、トマトの成長に関するアプリ開発のお話などを聞き、生徒たちにとって「探究をやる気」にしてもらえた1日でした。



国際探究科推進部 大谷 暁子